

## 定期総会で決算、新役員を審議



↑令和5年度常任役員

定期総会を生田キャンパスで6月3日（土）に開催し、吉村信子令和4年度育友会長を議長に、令和4年度事業報告及び収支決算報告、令和5年度事業計画及び収支予算、令和5年度育友会長、副会長及び監査役選出の議案について審議しました。

令和4年度事業においては、支部懇談会、就職懇談会、キャンパス見学会などがコロナ禍にあっても開催に至り、参加者から概ね満足の評価を得たことなどが報告され、全ての議案は可決されました。令和5年度育友会長に就任した小海祐資さんは挨拶で、「育友会はオール専修で進めていく必要がある。一人の力では成し遂げられないので、皆様の力を借りながらよりよく発展させたい」と抱負を語りました。



↑壇上左から挨拶を述べる佐々木重人学長、松木健一理事長、桃野直樹校友会長



↑退任した常任役員。挨拶を述べる吉村令和4年度育友会長

## 第1回 全国支部長会でシブコンに向けた話し合い

定期総会に続いて開かれた第1回全国支部長会では、7月30日（日）から9月3日（日）にかけて全国67支部、62会場で開催される支部懇談会について、全国の支部長が事務局から詳細な説明を受けました。その後、支部長と出張教職員との打ち合わせ会も開き、支部懇談会に向けて準備を整えました。



↑支部長を前に発言する小海令和5年度育友会長

## 新育友会長 就任挨拶

子どもが  
繋いでくれた  
ご縁とともに

令和5年度育友会長 小海祐資



ご父母・保護者の皆様におかれましては、日頃より育友会活動にご理解・ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。この度、令和5年度育友会長に就任いたしました小海祐資でございます。育友会は、大学へ通う我が子の様子を窺い知ることが叶わず、日々不安を覚えておられたご父母・保護者の声をきっかけとして、昭和33年（1958年）にご父母・保護者の会として発足いたしました。爾来、長い歳月を積み重ねてきた伝統ある組織の会長という重責に改めて身の引き締まる思いであります。精一杯その職責を果たす所存でございます。

育友会は、「ご父母・保護者には安心を、学生には自信を」をキャッチフレーズに掲げて活動しております。このキャッチフレーズは、育友会活動を推進するうえでの大切な基本方針でございます。この基本指針に基づく育友会の役割とは、大学の状況や学生の様子などをご父母・保護者にお伝えすること、そして学生が大学で心置きなく学生生活に励めるように支援すること、大きくはこの二点にあるものと存じます。

具体的な活動内容をご紹介しますと、定期総会（年1回）、幹事会（年4回）、常任役員会（年10回）、全国支部長会（年2回）等の会議では、育友会活動全般における運営方針を審議・決議し、円滑な運営に努めております。

また、在学生の創造的な取り組みに対する行動や成果を表彰する「育友会奨励賞」の選考委員会、大学の現況や学生の生活状況、育友会活動等のご案内をご父母・保護者の皆様へお届けする「会報『育友』編集委員会」、専修大学生のスポーツ活動を応援す

る「スポーツ応援推進委員会」、毎年秋に生田キャンパスで開催される「鳳祭」における来場者の憩いの場としてもご好評の「お休み処・育友」の企画・運営に係る委員会などの活動を通じて、“専修大学のサポーター”として大学の発展と学生育成を支援するとともに、育友会員であるご父母・保護者の皆様が相互に親睦を深めるための活動を行っております。

そして、育友会最大の事業が「支部懇談会」でございます。この「支部懇談会」は、大学教職員の方々が全国の各支部へ赴き、学業・学生生活・就職・大学の取り組みや近況などについて、ご父母・保護者の皆様へ直接お伝えする貴重な機会となっております。今年度の支部懇談会は、全国67支部・62会場での開催を予定しております。ご父母・保護者の皆様には、この機会に是非とも会場へお越しください、育友会員相互の親睦を深める場として、また、日頃抱えておられる不安や悩みなどを相談する場としてご活用いただければ幸いに存じます。

時代の変遷に伴い、育友会は時代の声に応える形で活動の幅を広げてまいりました。しかし、ご父母・保護者の皆様と大学、そして学生を繋ぐとともに、会員相互の親睦を深めるという育友会の使命が変わりはございません。我が子が専修大学の門を叩いてくれたことで知り合えた皆様とのご縁を感じながら、育友会活動を通じてご子女の母校である専修大学をご父母・保護者の皆様にも我が母校と思っただけのように努めてまいり所存でございます。この一年、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



# できることを 考えた日々



令和4年度育友会長 吉村信子

専修大学での育友会活動に参加させていただいた4年間は、あっという間に過ぎてしまいました。それまでは必要最低限程度のPTA活動にしか参加していなかった私でしたが、育友会活動は少し違う貴重な体験となりました。

野球部を始めとする体育会や箱根駅伝予選会等の応援、育友会主催イベントに参加した4年前には、まさかこの後コロナ禍により、娘の大学生活や育友会での活動に大きな制限がかかるとは夢にも思っていませんでした。

娘が2年生になる頃から、コロナ禍での活動制限が厳しくなり、2年次の授業は全てオンラインとなりました。くよくよしても何も始まらないと考え、「今できることを確実に！」と、娘にも自分自身にも言い聞かせ、前を向き、コロナ禍でもできることを模索し、チャレンジしてまいりました。

その甲斐あってか、娘は外に出られない分、時間がたくさんあると一念発起。1年次から受講していた図書館司書の資格に加え、学校司書の資格のための授業も追加して、卒業時には両方の資格を取得いたしました。また、コロナ禍で友人たちと会うこともできず、アルバイトにも行けない日々が続いていたため、育友会奨励賞の応募を勧めてみました。その結果、奨励賞もいただくことができ、何事にもチャレンジする気持ち、時間は有効に使うものだということを身をもって学んだようです。さらに奨励賞表彰式でお会いした受賞者の先輩方とのお話で、志の高さや活動内容も知ることができ、感動したと話していた姿に成長の跡を見たような気がしました。そして次年度以降、娘の受賞を知った友人や後輩が、

育友会奨励賞に応募してくれたことは、私にとっても嬉しい出来事でした。

コロナ禍で大学生活4年間のうち、半分程度の対面授業、キャンパスへの通学となってしまいましたが、それでもできることを探し、視野を広げて取り組んでいたようで、卒業式には「専修大学に入って良かった」、「専修大学松戸中学、高校、そして専修大学での合計10年間は本当に楽しかった」と満面の笑みでの袴姿でした。

私自身も、コロナ禍での制限が少し緩和された頃から、観戦可能な体育会の試合を各部の公式サイトから探し、大学からいただいた試合情報と併せて、育友会として体育会の応援を再開したり、箱根駅伝予選会の応援旗の作成に携わったりしました。どんな形であれ、専修大学の学生さんを応援できたことは、後藤康夫令和3年度会長が常々仰っていた、「子どもの母校は我が母校！」という熱い気持ちを次の代に引き継ぐ一端を担えたのではないかと自負しております。

また令和4年夏には、多くの支部で3年ぶりとなる支部懇談会も、開催することができました。

これもひとえに学長、総長、理事長をはじめとした教職員の皆様、育友会事務局の皆様、本部・支部の役員の皆様、校友会の皆様からのご支援の賜物だと感謝しております。

小海祐資新会長のもと、アフターコロナでの育友会のさらなる発展を祈っております。1年間、ご協力ありがとうございました。巣立ちつつある子どもたちのために、今後とも育友会活動にご協力、ご支援のほど宜しくお願いいたします。